

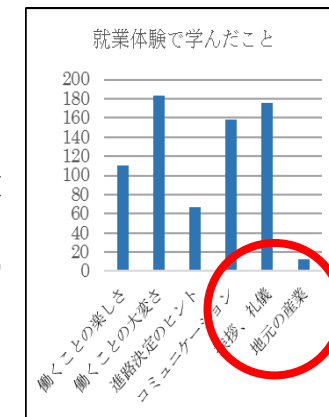
※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-60

部門名：	エントリー名：
カリキュラム・マネジメント実践部門	長野県塩尻志学館高等学校
活動名： 「探究的な学び」のかたち ～高校生が地元の中小企業を P R する～	
解決すべき課題： ◎就業体験学習から「シオジリ学」へ 「就業体験さえ実施していればキャリア学習をやったことになる。」との考えはそろそろ変えなければならない。2016 年度までの 5 年間、1 年生全員に就業体験を行ってきたが、指導方法のマニュアル化、体験先の業種や職種の固定化など、学習がマンネリ化していた。また、せっかくの校外学習が地域産業への理解や地域の魅力を発見することにつながっていないことがわかった。(→アンケート集計) そこで、以下の 4 項目にこだわって学習プログラムを作ることにした。 (ア) 就業体験学習のマンネリから脱却する。 (イ) 事業所と高校(キャリア学習)をウィンウィンの関係にする。 (ウ) 地域密着・生活密着の仕事にフォーカスする。 (エ) 「探究的な学びへのアプローチ」として位置付ける。	
目標・方針： ◎「シオジリ学」 ＊塩尻市のことを調べる学習ではない。 高校生との関わりが少ない地元の中小事業所を訪問して見学・インタビュー取材を行い、紹介記事を書き、P R 誌を作って地域に情報を発信する。地域の産業や職業に関心を持つきっかけを作り、新たな職業観を育む。P R 誌作成の過程では、情報収集や整理、情報発信の役割について学ぶ。 ◎「探究的な学び」のかたち(学び方)の習得 「課題に対して、十分な事前学習を踏まえて体験的な学習を行い、新たに発見した情報を適切に整理して、目的に沿った形で発信する。」という一連の学び方を「シオジリ学」というテーマ学習を通して身につける。 ◎情報の獲得・整理・発信 働く人の表情や動き、職場の雰囲気、音や匂いなど、行かなければ分からないことを感じとり記録する。ネットや資料による事前学習では得られないことのみを質問する。“P R する”という目的に適った記事を作成する。紹介記事は単なる学習のまとめではなく、情報を伝える“媒体”であり、そこで求められるのは“正確さ”だけではないことを理解する。	
活動内容： ①「ゼロからの課題の設定」 訪問先について生徒の希望は取らず、予備知識がゼロ(知らない)の状態からスタートする。地域に密着した中小規模の会社や工場など、“よく知らない”事業所を取材し、自慢やこだわり、塩尻で仕事をする理由など“何らかの魅力を発見”する。学校を出発してから帰校するまでの計画を自分たちで立てる。 ②「取材→記事作成→プレゼンテーション」作業のための役割分担 学習は 6 人グループで行う。「人任せ」の雰囲気を作らず、活動に主体的に参加する意識を高める。一人ひとりの個性や得意分野を活かせる場面(役割)を作り、「責任」と「協働」の意識を持たせる。 ③「情報の整理とまとめ(誌面デザイン)」 (ア)取材した情報の中から「記事にすべき情報」をグループで話し合って選ぶ。	



アンケート調査対象 240 名
(複数回答可)



協力依頼用リーフレット

〈イ〉事業所のキャッチコピーを考える

例：「新 3K かっこいい！稼げる！感動を与える！」、「小さなネジで創り出すミライ」

〈ウ〉記事を誌面に配置する。

グループで共有した記事、写真、キャッチコピーを各自のアイデアに従ってオリジナル誌面を作成する。

④「誌面プレゼンテーション」

グループとして採用する誌面を一つ選ぶ。各自が作った誌面についてプレゼンテーションを行ない、グループ代表の誌面デザインを決定する。その後、印刷用原稿を完成させる。ワープロの使用も可とする。

⑤「情報の管理」

事業所にも校正を依頼し、社会(会社)が求める「正確さ」とはどのようなことかを理解する。「誤字や脱字をなくす程度のレベルでは会社が大切にしているイメージを守ることはできない」ことが分かる。

⑥「発表」

事業所の紹介にとどまらず、誌面づくりで工夫したことなどを発表方法(パワポ、寸劇)も考えて行う。

活動の成果：

「シオジリ学」は今年で 3 年目を迎え、協力事業所は今年で 126 社となった。地域にこだわったキャリア学習として地元商工会や産業振興会の協力を得られるようになった。また、2 年次には地域の事業所で就業体験を実施し、3 年次には商工会の「塩尻市を P R せよ」とのミッションに応じてグループワークを行うなど、地域との関係を年々深めながら、本校の特色ある取組となっている。また、事業所の感想からは、この事業所紹介誌が「情報誌」としての役割をしっかりと果たしていることが分かる。

◎事業所の感想・意見

- ・自社を説明することで自社の仕事を再確認することができる。
- ・自分たちの仕事を振り返る機会になった。
- ・企業が狙った視点と生徒の視点とのギャップがこちらには新鮮でした。
- ・地域にも人生を享受できる場所や仕事があることを認識してもらえた。
- ・他の会社や同業者のことを知ることができ企業としてもありがたい。

◎生徒の感想

- ・初めて見る機械や、初めて嗅ぐ機械油の匂いなど、貴重な体験ができた。
- ・毎日の通学で通り過ぎていた見慣れた景色が変わった。
- ・今まで工業系の仕事のことを全く知らずに過ごしてきた。
- ・塩尻にこんな会社があったのは知らなかった。
- ・会社の良さや魅力をどうしたら伝えられるのか考えるのは難しかった。



アピールポイント(アイデアや工夫)：

- (1) 職場訪問先を生徒の進路希望とは無関係の会社、地域に密着した中小企業を対象とすることで、より現実的で身近な暮らしへの関心を持たせることができる。
- (2) 「会社の自慢」という前もって予測しづらい課題を与えることで職場訪問前の学習が充実する。
- (3) インタビュー、メモ、写真、イラスト、プレゼンなど、生徒がそれぞれの得意分野を生かして活躍できる場面を作り、やる気と責任感の上に立った協働作業を行わせることができる。
- (4) 「発表＝まとめ」「冊子完成＝学習の終わり」とするのではなく、学習発表は「プレゼンテーション」に進化し、冊子は「社会への情報発信」へと可能性が広がる。